

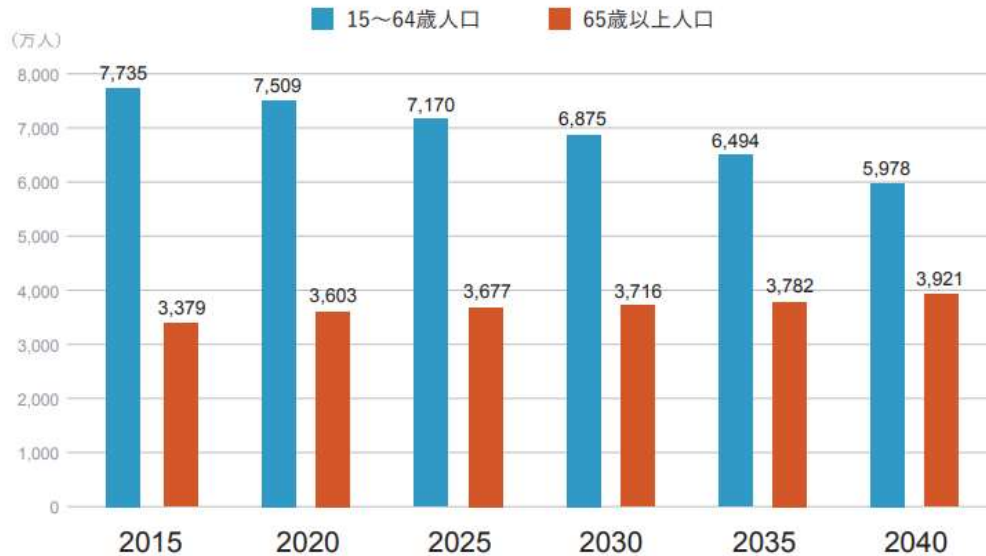
『RPA（Robotic Process Automation）』活用のご提案

株式会社ネグジット総研

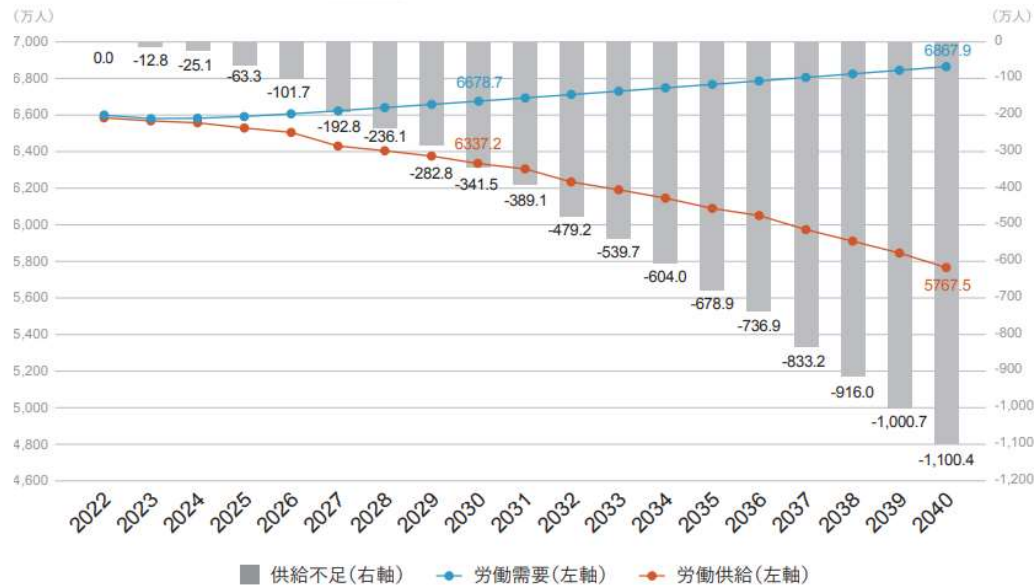
～労働人口が圧倒的に不足する未来予測～

～労働人口が圧倒的に不足して賃金が高騰する～

図表1 15～64歳人口と65歳以上人口の推移



図表2 労働需給シミュレーション



2030年には **341万人**
2040年には **1,100万人**
人手が不足する！

リクルートワークス研究所の発表では、
2030年には341万人、2040年には1,100万人
「人手不足」となることが予測されています。

後継者不足や技能承継難、デジタル人材の不足など
といった、産業・企業視点からの単なる人手不足論で
はなく、「生活を維持するために必要な労働力を日本
社会は供給できなくなるのではないか」という問題とし
て懸念されています。

「未来予測2040 労働供給制約社会がやってくる」より抜粋
(リクルートワークス研究所 2023年3月28日発行)

労働力不足の社会的な背景と生産性向上への取り組み

社会的な背景

- ・2025年問題(団塊世代が75歳以上となり、医療/介護/社会が転換期に。高齢化率(65歳以上)は2035年には33.4%で3人に1人となり、その後さらに高齢化率が高くなる)
- ・労働力の減少(2030年には約341万人の労働力不足)
- ・新型コロナの影響や、経済産業省提唱の「働き方改革」と「DX推進(デジタルトランスフォーメーション)」などから、働き方の変化(テレワークやオンライン化が加速)

医療・福祉業界

- ・医療従事者の人材不足。増え続ける患者に対して医療に従事できる医師や看護師、介護従事者の数が不足
- ・社会保障費の増大と抑制
- ・医師のタスクシフティングへの取り組み
- ・ICT(情報通信技術)の導入による業務の効率化や人手不足の解消や経営状態の安定化が急務

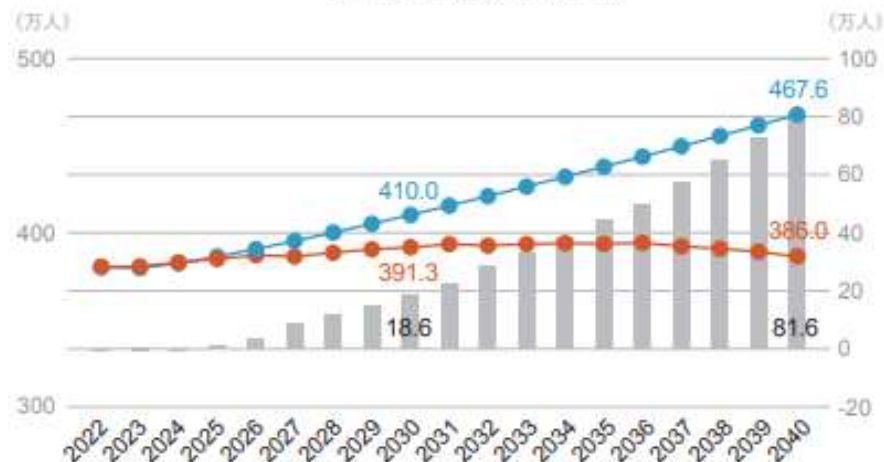


労働力不足の課題を解決する手段のひとつとして、『RPA』の導入による生産性向上を検討する企業が増えてきています。

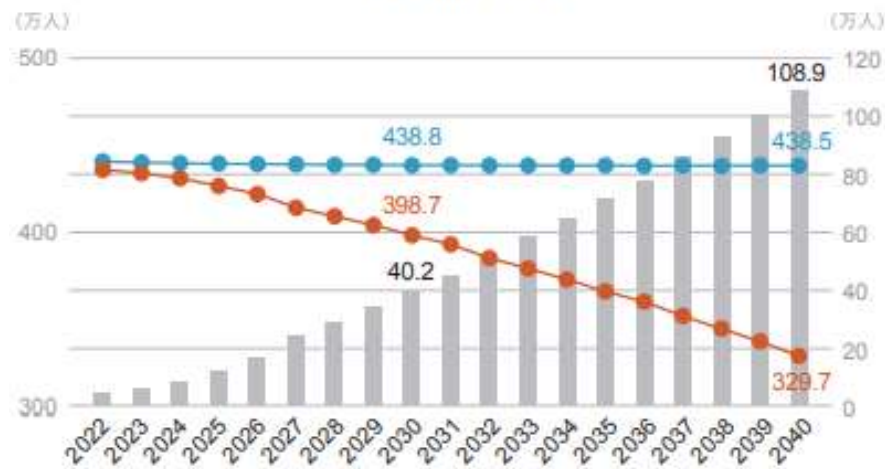
職種別シミュレーション

■ 供給不足(右軸) ● 労働需要(左軸) ● 労働供給(左軸)

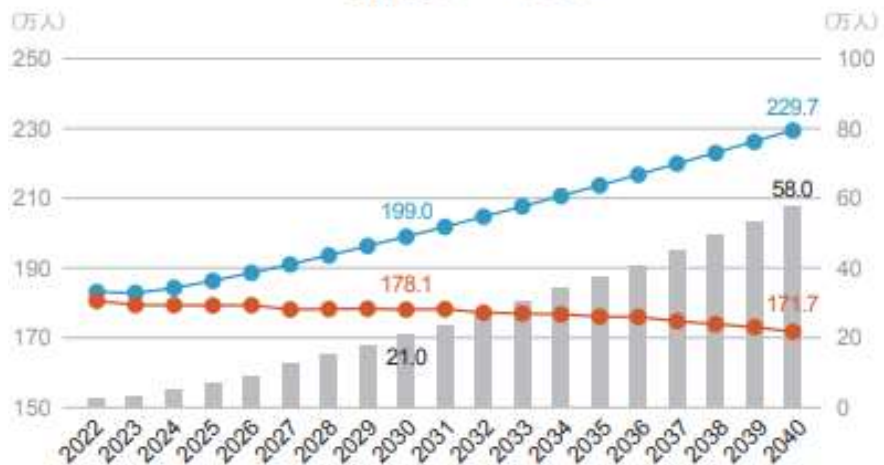
保健医療専門職



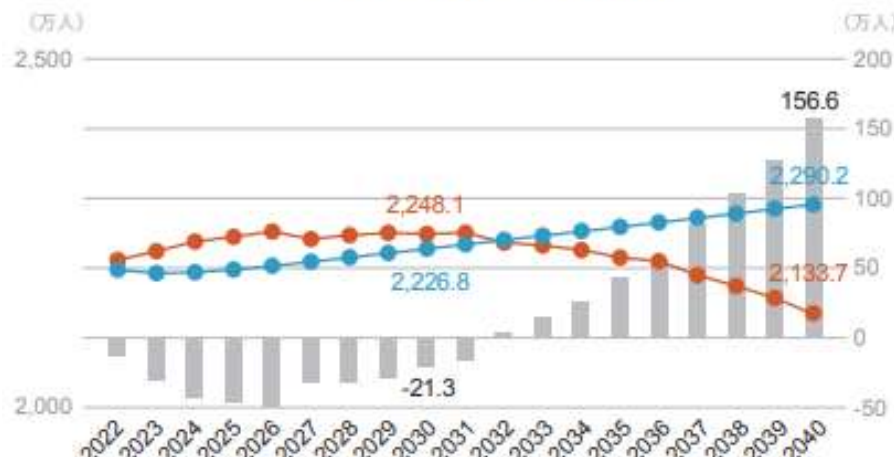
商品販売



介護サービス



事務、技術者、専門職



「保健医療専門職」(医師・看護師・薬剤師など) → 2030年に18.6万人、2040年に81.6万人の供給不足
 「事務、技術者、専門職」(事務職、技術者、教員、士業などの専門職) → 2030年では21.3万人の供給過剰だが、2040年には156.6万人の供給不足
 「商品販売」職種 → 2030年に40.2万人、2040年に108.9万人の供給不足
 「介護サービス」(介護職員や訪問介護従事者など) → 2030年に21.0万人、2040年に58.0万人の供給不足。
 ※「週4日必要なデイサービスに、スタッフ不足で3日しか通えない」

業務改善に向けての課題・解決すべきこと

多くの企業の業務部門ではどのような課題があるのでしょうか？

背景

生産労働人口が減少の一途をたどる日本社会において、「働き方改革」で労働生産性を向上させて、長時間労働など人の負担を軽減することが求められている

課題

しかし、実際の業務では、単純作業を減らすことはなかなか出来ていない…

ファイルの
コピー&ペースト

定型的なメールの
返信処理

数値やテキストの
入力の繰り返し



解決すべきこと

「ルールと手順がしっかり決められた定型処理作業」をロボットで自動化出来ないか？

DX(デジタルトランスフォーメーション)とは

DXの定義

「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、**製品やサービス、ビジネスモデルを変革**するとともに、**業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること**」

(経済産業省DX推進ガイドラインより引用)

<https://www.meti.go.jp/press/2018/12/20181212004/20181212004-1.pdf>

「DX」の2つのタイプ

変革には「既に起きた環境変化に対応するための製品・サービス・ビジネスモデルの変革」という**一過性のDX**と、「将来的な環境変化に継続的に対応するための、組織・プロセス・文化・風土の改革」の**永続性のDX**の2つのタイプがあります。

一過性のDX

既に起きたビジネス環境の変化に対応するための
製品・サービス・ビジネスモデルの変革



永続性のDX

この先も起こりうるビジネス環境の変化に継続的に対応するための
組織・プロセス・文化・風土の変革



ビジネス環境の変化	市場・顧客のニーズ変化／デジタル技術を活用した競合サービスの台頭 労働人口や労働者の意識の変化
デジタル技術の活用	RPA、AI、IoT、... etc

デジタル人材育成の必要性

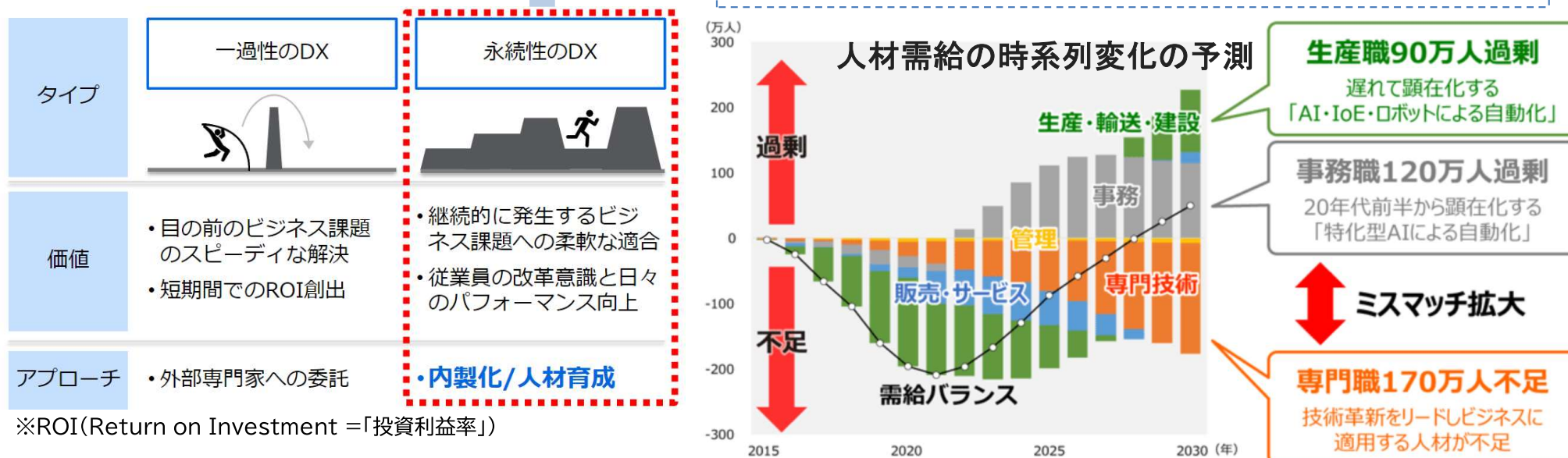
◎DXの本質は「素早く」変革「し続ける」能力を身につけることであり、内製化/人材育成が求められます。

「永続性のDX」に向けた「デジタル人材育成」が重要

※DXの本質(経済産業省DXレポート2 より引用)

「素早く」変革「し続ける」能力を身に付けること、その中ではITシステムのみならず企業文化(固定観念)を変革することが重要

今後、過剰になると見込まれる事務職要員に対して、RPA・AI・OCR等の先進技術等に関するトレーニングを実施し、改善および改革をリードする“デジタル人材”として、育成を実施する。



出所：三菱総合研究所

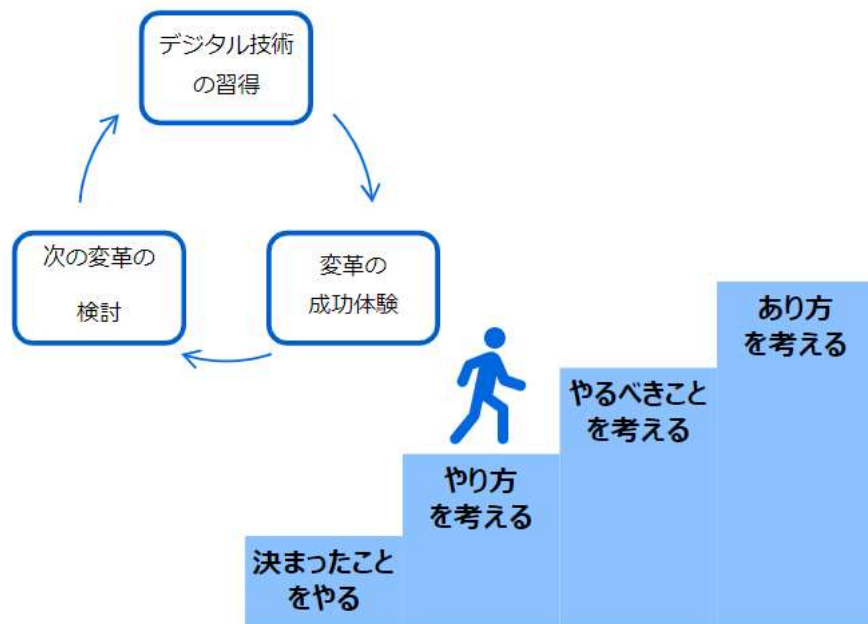
「DXの内製化」と、そのための「デジタル人材の育成」は早期に取り組む必要があります

デジタル人材育成の成功要因

- ◎デジタル人材の育成には、「技術習得」「行動・成功」「変革の検討」のサイクルを回すことが重要です。
- ◎現場人材の育成には、技術習得の容易性と業務範囲の広さから、RPAを起点とすることを推奨します。

デジタル人材育成のサイクル

育成サイクルを回すことで現在の視座が向上し、業務の「あり方」を描ける人材へシフト



現場人材育成に適したデジタル技術

デジタル人材育成サイクルを回す技術は、技術の習得と活用のしやすさからRPAが有効



RPA製品のロボット作成のイメージ

✓RPA(Robotic Process Automation)とは、パソコン上の定型処理などの手作業を、ロボットによる操作の流れを記述して、業務自動化を行うものです。

✓ロボットの操作の流れの作成は、人が行うオペレーションをフローチャート化したものです。(図参照)

✓現場レベルでメンテナンス可能で、エンジニアなど必要なく現場主導で効率化が行えます。

Autoジョブ名人画面サンプル

demo_koutuuu_cheiku : デモ_交通費チェック

グループ	行	LOOP	行無効	カテゴリ	処理区分	動作設定	メモ	タグ検索文字	Value属	セル	応答	GOTOフラグ	GOTO
	1		<input checked="" type="checkbox"/>	ファイル操作	フォルダ削除	+	元ファイルからチェックファイルにコピー		C:\nextit				
	2		<input type="checkbox"/>	Excel基本操作	Excelも起動する	+	チェック済みファイル開く						
	3		<input type="checkbox"/>	Excel基本操作	シート選択	+	Sheet1 選択						
	4		<input type="checkbox"/>	拡張	値セット	+	PrivateNum(0)に 1セット						
	5		<input type="checkbox"/>	Chrome基本操作	ブラウザを開く	-	Yahoo!路線情報 開く				<input checked="" type="checkbox"/>		

対象の検索方法: タグ [詳細]

動作設定: URL: https://transityahoo.co.jp/

画面を開いた時の画面のサイズ: 初期値

応答チェックを行う

※画面が完全に開くまで待つ場合はチェックを入れます。

6	<input type="checkbox"/>			分岐・繰り返し	GOTOラベル	+	■繰り返し開始						
7	<input type="checkbox"/>			拡張	値セット	+	PrivateNumber(0)カウンタアップ						
8	<input type="checkbox"/>			Excel基本操作	値取得	+	各行のAセルの文字をPrivateString(1)にセット 日付			AK%Priv			
9	<input type="checkbox"/>			分岐・繰り返し	分岐	+	各行のAセル=PrivateString(0)が空なら終了に					ラベル(LABEL)用	■繰り返し終了
10	<input type="checkbox"/>			拡張	コメント		——ここから繰り返し内容処理						
11	<input checked="" type="checkbox"/>			拡張	条件スクリプト記述								
12	<input type="checkbox"/>			Chrome基本操作	クリック	+	乗換案内				<input checked="" type="checkbox"/>		
13	<input type="checkbox"/>			Excel基本操作	値取得	+	PBString(2)にセルB 曜日			BK%Priv			
14	<input type="checkbox"/>			Excel基本操作	値取得	+	PBString(3)にセルC 出発地			CK%Priv			
15	<input type="checkbox"/>			Excel基本操作	値取得	+	PBString(4)にセルD 到着地			DK%Priv			
16	<input type="checkbox"/>			Excel基本操作	値取得	+	PBString(5)にセルE 経由地			EK%Priv			

BizRobo画面サンプル

なぜ今RPAが普及しているのか？その背景とは！

1. 「政府主導で行う働き方改革」

2019年4月1日より既に一部法案が施行されている「働き方改革法案」。女性や高齢者などの働き手の増加施策や、出生率を上げて将来の働き手を増やすことの2つに加え、労働力が減少しても限られた人数で生産性を向上させることにより、国全体の生産性を維持するという方針。

2. 大手企業では、すでにRPA導入は過半数を超えている

「RPA国内利用動向調査 2021(株式会社MM総研 2021年1月調査)」に関する調査レポートでは、企業の生産性を向上させるRPAの活用が、年商50億円以上の企業では、社数ベース普及率は37%を超え、大手に限れば過半に達している。

3. RPAはパソコンを使ったルーティンワークを代替できるツール

パソコン操作を自動化するRPAは応用範囲が広く、他の技術や製品に比べると非常に導入しやすくなっています。このためこれまでIT化の対象となっていなかった業務や、IT化の投資対効果が出ないと見られていた業務にも適応できるようになっています。投資対効果も測定しやすく、短期間で投資を回収できる

4. 人手不足の中小規模の企業こそRPAは必須ツール

生産性を向上させるRPAの活用が、企業規模や業種問わず普及してきている。

RPAを活用するメリットと導入効果

RPAツールを導入するメリット・効果は、大きく3つあります

✓売上の最大化

定型業務の効率化により、従業員を新たな人的リソースとして活用でき、企業はより創造的な経営戦略を構築できます。例えば、管理部門の業務を自動化して、営業部門の間接業務を管理部門にシフトし、営業担当者はシフトした間接業務の手間と時間を営業活動に専念でき、結果売り上げ拡大につながります。

✓コストの削減

RPAによる業務スピードの向上により、半日もかかっていた業務がわずか数分で終わるケースもあります。RPAが定型業務を代行して処理することで、従業員の残業時間の削減にもつながり、ワークライフバランスの実現にもつながります。RPAは24時間 365日働き続けることができます。残業時間や配置人員の削減が実現し、人件費の削減にもつながります。また「退職」することがないため、採用・教育・研修・福利厚生のためのコストも少なくてすみます。

✓生産性の向上、新しい価値の創造

24時間稼働可能なRPAは、速度においても件数においても人の手を大きく上回り、作業効率がアップします。定型業務をRPAによる自動化することにより、ミスが減少し、それに対するフォローやリカバリーの時間、クレーム処理の負担も軽減できるため、担当従業員が本来すべき非定型な業務に専念できます。「既存業務の効率化」だけでなく、これまで人の操作では困難であった、長時間の繰り返し処理やデータ収集などから、「新しい価値の創造」に活用する事例が増えています。

『RPA』の活用事例

定型の繰り返し業務が発生しがちなバックオフィス系の事務作業は、RPAとの相性が非常に良く、定型業務を減じてこそ会社の収益につながる創造的な業務に費やせる時間の確保ができます。

また、「既存業務の効率化」だけではなく、効率化によって生まれた時間を、「新しい価値の創造」に活用する事例が増えています。

1. 打刻チェック業務の自動化

「残業・休日出勤などの申請の有無と打刻データとの照合など、事前申請と打刻情報にズレがある場合は本人確認する」という一連の業務を全て自動化した事例。

2. 勤怠上の問題を上長に自動メール通知

長時間労働の監視や、また入退室管理システムを利用している場合は、「入退室管理システムと勤怠管理システムのデータのズレがないかチェック～部門長への報告」を自動化し、スピーディーな改善アクションを実現。

3. 交通費精算チェック業務(総務・経理部門への導入)

従業員から提出される交通費精算書の金額チェックに多くの工数がかかっていたため、RPAによるチェック業務を自動化し、交通費精算の申請を基にWebの画面と照らし合わせ、最適なルートのコストかどうかの判定を行い、判定結果を申請者本人にメールで報告。

4. 分析用データ収集を自動化

デジタルマーケティングを行っている企業においては、精度の高い分析に基づいた運用改善は必要不可欠。分析対象となるデータの数や種類を増やそうとすると、データ収集に多大な工数がとられてしまいます。人手に頼ってでは到底集めきれないデータ収集業務をRPA化することで、新たなデータに基づいた精度の高い分析調査が可能。

5. アタックリストの自動生成

BtoB企業であれば、営業に欠かせないのがアタックリスト。しかし、アタックリストを内製しようとするとうまくいかず、コピー作業だけで一日が潰れてしまいます。RPAを利用して、データ収集とアタックリストの作成業務を自動化。

『RPA』の活用事例(2)

6. お問い合わせ対応を自動でタスク化

顧客からの問い合わせや新規の申し込みをメールで受け付けている場合、内容も重要度も様々なメールが届いてしまって、本当に大事な問い合わせに対応できない場合があります。RPAを使って対応一覧をタスク登録して、対応の抜け漏れをなくすることができます。

7. 採用管理業務の各広告媒体やエージェントとの自動連携

職員採用のための求人募集広告の各媒体への連絡や、エージェントごとの管理画面からの情報収集、エージェントとの求人・求職者情報のやり取りに多くの手間がかかっています。採用管理システムとRPAの連携により、各エージェントの管理画面への登録の自動化や応募者情報の自動取得などが実現でき、採用業務のスピードアップや優秀な人材の獲得につなげることができます。

8. 反社チェックや与信業務の自動化

BtoBの取引や、また人材採用の場面で、いざ契約というタイミングで反社チェックや与信調査などが必要になります。これもRPAで自動化することで業務効率を向上させることができます。

9. ECサイトで配送ステータス更新を自動化

購入された商品の配送ステータスを購入者のマイページに通知するには、配送業者のシステムで更新されるステータスをECサイト側でマイページに反映させなければいけません。RPAを使えば、マイページにおける出荷後の配送ステータスの更新を自動化し、更新の人手を削減しながらユーザーの利便性を高めることができます。

10. 入札情報のチェック業務(営業部門への導入)

複数の指定サイトを閲覧して定期的に入札情報を確認していましたが、業務効率化のため営業部門にRPAを導入。指定した複数のサイトを定期的に自動確認し、最新の入札情報をチェック、入札結果の公表データなども集計したうえでダウンロードして共有する、という作業をRPAによって自動化。

『RPA』の活用事例(3)

11. 受注情報のシステムに活用(事務部門への導入)

Webからの受注データダウンロードをもとに、人が売上入力を行っていたところを、人の判断が必要なものとそうでないものとを振り分け、人の判断が必要でないものに関してはそのまま受注管理システムにRPAで自動投入し、人の判断が必要な注文情報は、要確認フォルダーへ保管して通知メールを配信し、入力業務の効率化を行います。(例:納地が遠方、受発注商品、コメント記載あり、など)

12. 商談日報のチェック業務(営業部門・お客様相談室への導入)

日報から入力されたお客様情報を、RPAによって日報を定期的にダウンロードして、その中から特定のコメント(お客様からの不満、改善要望など)が自動的に拾い出されるようにし、さらに拾い出されたコメントは、お客様相談室に自動送付される仕組みとして、日報と有効活用を工数をかけずに運用できます。

13. OCRデータ変換から販売管理システムへの取り込み

お客様からの受注が紙やFAXの場合、RPAにより、書面をAI OCRでデータ変換し、販売管理システムへ売り上げ処理を取り込むまでの作業が自動で行う事例も増えてきています。その結果、入力工数は大幅に削減し、生産性の向上を図ることができます。

14. 通販業務における在庫状況更新

自社ECサイトと社外ECモール在庫数の更新作業を1日1回手作業で実施しており、ECサイト上の在庫数の更新作業の自動化や、ECモールの注文メールから必要項目をコピーし、受注入力するまでの運用の自動化を行うなどの効率化が図れます。そのことにより、在庫の更新を1時間毎に自動で行え、機会損失を防止にもつながります。

失敗しない『RPA』導入を行うために

RPAの導入効果を、時間だけに注目してRPA適用業務を決めると、「RPAはできるだけ削減時間の大きな業務に適用しなければならない」といった発想になり、なかなかRPAの運用に辿り着けないといった失敗するケースが多く見られます。



できるだけ削減時間の大きな業務に適用しなければならない



1

削減時間が少ないとしても、現場で本当に負担となっている業務を洗出す

「自動化したい業務を教えて」
「RPA化したい業務をピックアップして」



2

「今面倒な業務を10個出して」
「手が離れたらうれしい業務を10個出して」

「経費清算業務」といった形でいきなり業務のすべてを自動化しようとする



3

業務のプロセスを細分化したうえで、まずは一部のプロセスを自動化できないか考える

(参考) RPAを利用した業務効率化目標の事例

業務棚卸シート:ユーザー記載例

No.	優先度 (A>B>C)	部署	業務内容	利用システム	頻度	人手による発生頻度			RPAの削減	
						1回あたりの作業時間 (分)	月(回)	年間作業時間(時)	どれぐらい削減できそうか(割合)	費用対効果
1	B	商品部	ピックアップされた商品の在庫情報をまとめ、不足を注文	メール	毎日	120	8	192	92%	¥316,800
2	A	マーケティング	店舗別販売メニューマスタを更新し販促物作成時に印刷会社へ提供し、販促物納品店舗リストを物流センターに共有	メール	毎週	180	3	108	92%	¥178,200
3	B	マーケティング	販促物の受注を売上げ申請書起案、加盟店請求	Excel	月2	30	2	12	67%	¥14,400
4	A	マーケティング	毎週の新商品や指定の商品の販売数を拾い、共有	メール	毎週	120	4	96	92%	¥158,400
5	A	お客様相談室	アウトソース先からのデータを集計し、各部門に配布	メール	月5	80	5	80	94%	¥135,000
6	A	人事グループ	OCRされた情報のシステム取込	奉行	毎日	5	4	4	60%	¥4,320
7	A	人事グループ	残業を集計して、45時間以上の社員を抽出して予測データを作成して、担当者にメールで送る。	勤次郎	月2	360	2	144	92%	¥237,600
8	A	人事グループ	有給を集計して、年5日間取得に満たないと想定される社員を抽出して、担当者にメールで送る。	勤次郎	毎月	360	1	72	83%	¥108,000
9	A	人事グループ	毎週金曜日に打刻データエラーの修正依頼を配信したい	勤次郎	毎月	1440	1	288	67%	¥345,600
10	A	人事グループ	テレワークの利用率を算出する	勤次郎	毎月	30	1	6	83%	¥9,000
11	A	人事グループ	テレワーク時の残業をした社員をピックアップリスト化して担当者にメールする	勤次郎	毎月	30	1	6	83%	¥9,000
12	A	人事グループ	外国人の在留カード期限が1か月前になったら、アラートをメールで送信する	勤次郎	毎月	30	1	6	83%	¥9,000
13	A	人事グループ	契約社員の更新期限が1か月前になったら、アラートをメールで送信する	Excel	毎月	30	1	6	83%	¥9,000
14	A	人事グループ	社員数を人事奉行から抽出してExcelで帳票を作成して、月末の所属人数を雇用体系別に記入する。	人事奉行	毎月	30	1	6	83%	¥9,000
15	A	人事グループ	基準のガソリン代を石油情報センターからダウンロード、人事奉行から現在のデータをダウンロードし、石油情報センターのデータに書き換え、人事奉行に再度取り込む。	Web 人事奉行	年3	60		3	92%	¥4,950
16	B	総務グループ	株主の情報をみずほのcsvデータを元に更新	Excel	半年	960		32	99%	¥57,000
17	C	営業サポート	メニュー配信サーバーのバックアップデータ削除	サーバー	毎日	5	30	30	100%	¥54,000
18	C	情報システム室	Malionからログを抽出して保存する	Malion	毎週	15	4	12	67%	¥14,400

残業の要因となっている⇒ **¥1,673,670**

★生産性アップの為のおすすめRPA製品

BizRobo!



「RPAツールを使って一歩進んだ自動化に取り組みたい」と考えている企業におすすめの製品です。これまでに10,000以上のロボットの運用実績があり、シェアも高く、数十社とパートナー連携を行っているため、さまざまな企業の状況に合わせて柔軟な導入ができる点もおすすめしたいポイントです。スタンドアロン型からサーバー型RPAによる集中管理まで、段階的なスケールアップも可能で、1台のサーバーで複数のロボットを作成して社内パソコンに配布するなどの管理も簡単です。オンラインのポータルサイトなども充実しており、サポート面でも安心して導入できます。

Autoジョブ名人、Autoメール名人



国産RPAツールであるAutoジョブ名人は、「自動化した業務を止めない安定性」や「充実したサポート体制」が特徴です。画像認識ではなく、HTMLタグ情報により画面上の項目を認識するので、画面サイズや解像度、画面デザインの変更に影響されにくいメリットがあります。（※画像認識による画面遷移も可能です。）
「充実したサポート体制」では、RPAを開発したSEが開発支援やサポートなどの対応をすることが挙げられます。開発体制に応じた教育メニューの提供、開発を任せたい場合にも開発スタッフがサポートするなどがあります。



汎用的なRPA製品では、メール受信後の添付データの取出しや、暗号化された添付データの復号処理など、難しいメール業務の自動化をAutoメール名人なら、簡単に自動化が実現できます。
問合せの受信メールを取出し、順番にエクセルに転記していくなど、Autoジョブ名人との組み合わせによって、メール業務の様々な自動化に対応できます。

RPAツールの選び方のポイントと導入手順

まずは、「無料トライアル」をベンダーと調整して使用してみる

一口にRPAといっても、それぞれ特長や機能は大きく異なります。とはいえ、各製品のウェブサイトを見たり、製品資料を眺めているだけでは、それぞれの違いを認識することは難しいでしょう。

自社に合ったRPAを見つける為の第一歩は、何よりもまずトライアルをしてみることです。

とはいえ、世の中にはすでにたくさんのRPAがあり、それらのRPAをひとつずつトライアルで試してみるような時間はないはずです。

まず、自社のRPA化したい簡単で定期的な業務を選定して、RPA製品の特性や価格等から、自社に合っていると思われるをRPAで試用してみることをベンダーと調整して進めることが望ましいでしょう。

弊社では、いくつかのRPAメーカーと協力して、試用においての手順のご支援が可能です。

★生産性アップの為のおすすめ製品

スキャンした紙帳票のデジタル移行システム「スマートOCR」

高度なデータ抽出

請求書、決算書、勤務管理表、健康保険証、領収書、通帳、源泉徴収票など、書式の形式にかかわらず帳票画像のデータ化が可能です。



★「スマートOCR」なら書式の違う帳票も共通のテンプレートで

フォーマットの異なる請求書 から、共通のデータ抽出テンプレートを作成し「請求日」「会社名」「請求金額」「振込口座」等の項目を自動的にデータ抽出できます。また、フォーマットの異なる請求書（帳票）から、帳票内の表データ「商品名」「数量」「単価」「金額」等を自動的にデータ抽出できます。

ネグジット総研のRPA導入支援サービス

1. 導入目的・効果指標の明確化と計画化支援

自社で現状の課題を把握し、RPA導入の目的を明確にすることが重要です。弊社では「いつまでに何をもって成功とするか」というように、定量的な効果指標の明確化と、導入の計画化を支援致します。

2. 業務分析/対象業務の抽出

業務分析のための人為的なヒアリングは、誰が誰に聞くかによって結果にムラが出てしまいがちです。そのため、組織や部門単位で網羅的な業務の洗い出しが必要です。時間とコストを掛けすぎず、現場主導で推進できるように、業務分析ツールなどの利用のご提案などを行い、対象業務の抽出について支援致します。

3. RPA製品の選定と、試用シーンの導入支援

一口にRPAといっても、それぞれ対応可能な業務規模などがあり、特長や機能は大きく異なります。その為、自社でどんな業務を自動化したいか検討しておく必要があります。単純作業を自動化できるRPAツールもあれば、複雑な業務に対応できるAIを搭載したロボットソフトウェアも存在します。弊社では、RPA化したい業務に応じたRPA製品をお勧めし、試用期間において最適なRPA製品を選定できるように支援致します。

4. 導入後の効果検証の支援

RPAを効果的に運用していくために、導入後も同様の業務分析をし、前後の結果を比較し導入の効果を見える化する必要があります。その為の、業務削減量といった効果を定量的に表現する支援を行い、効果検証を行うことで経営層や現場からの理解を得ることや、RPAの中長期的な運用につなげていきます。